

経営比較分析表（平成30年度決算）

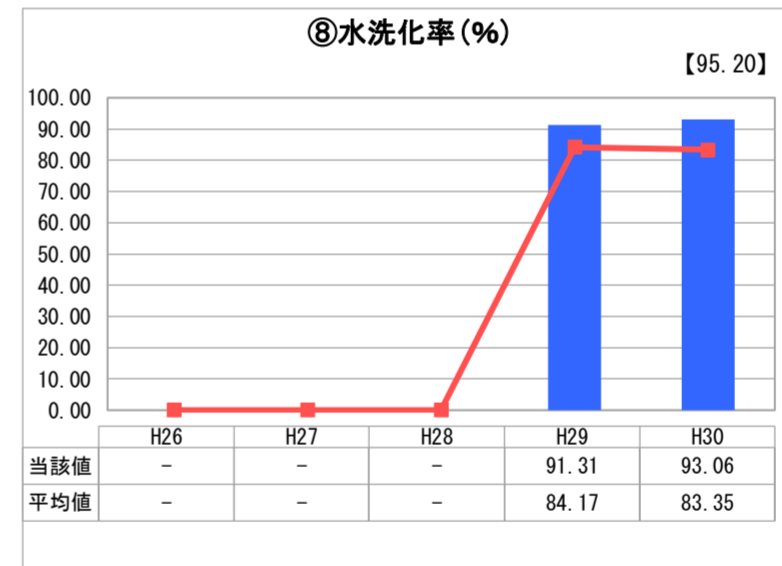
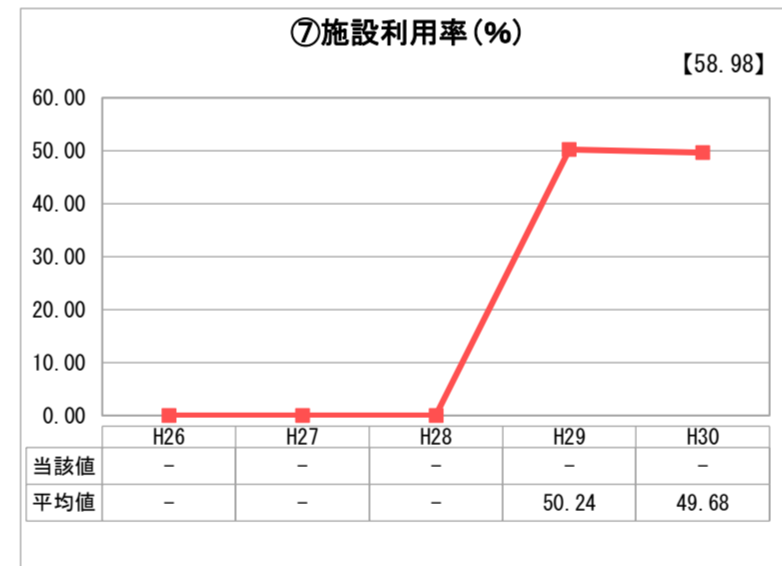
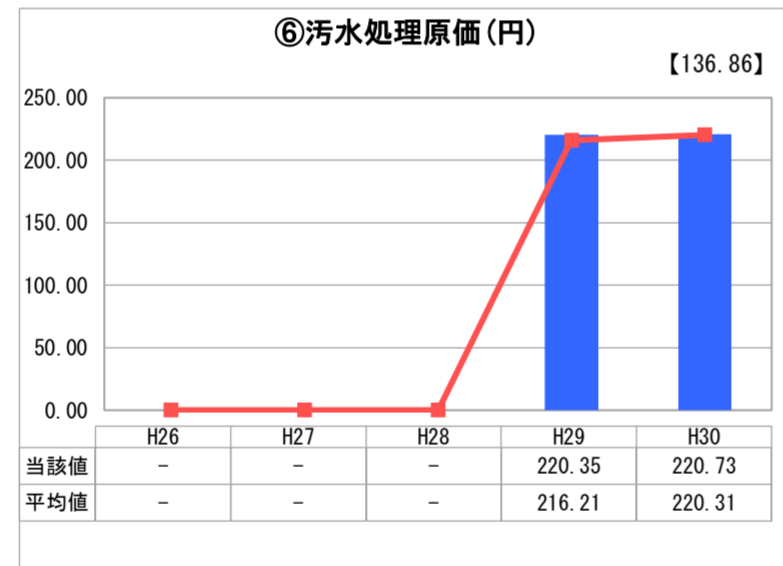
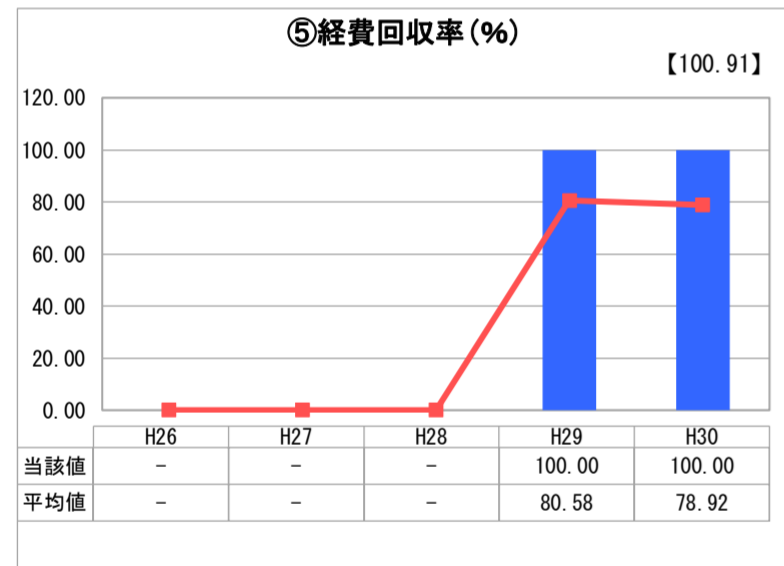
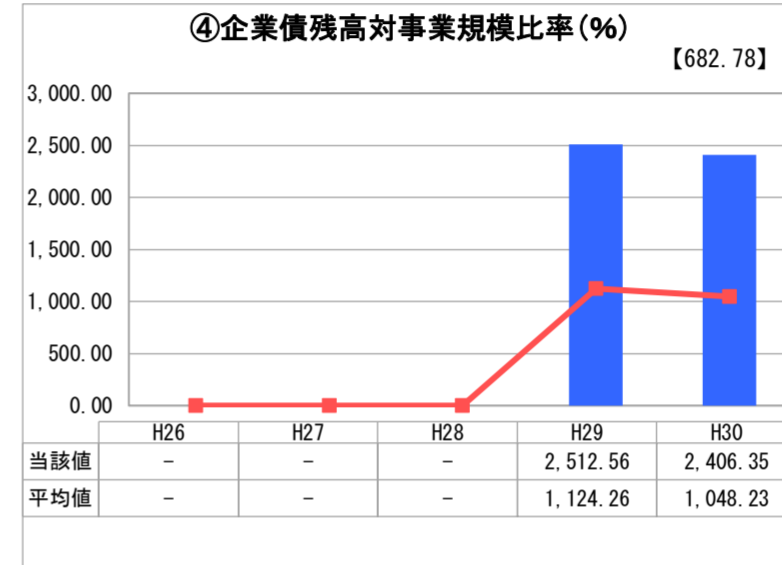
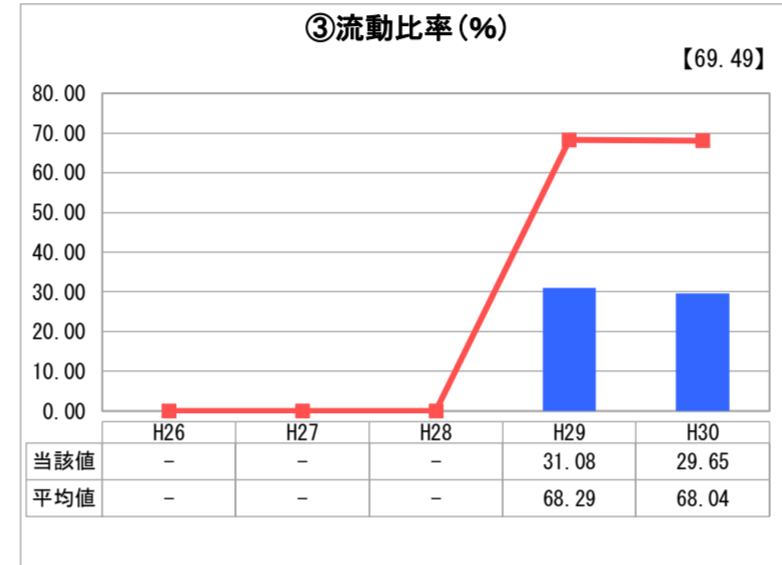
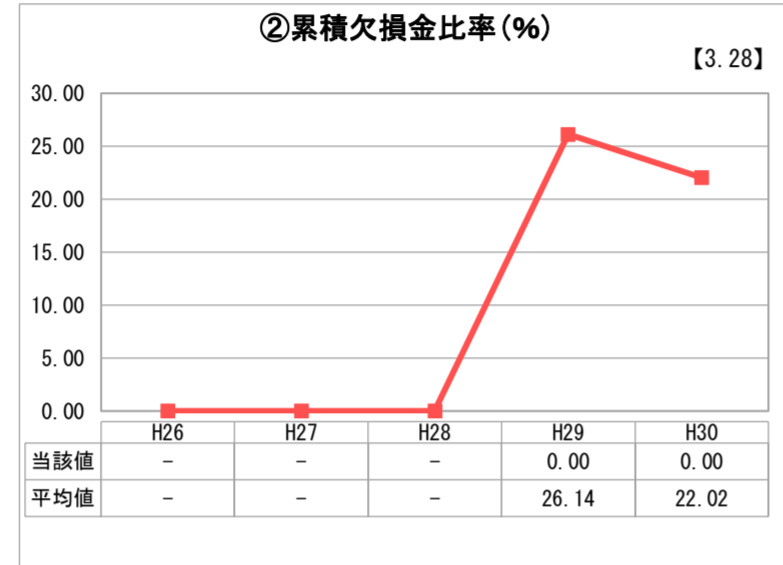
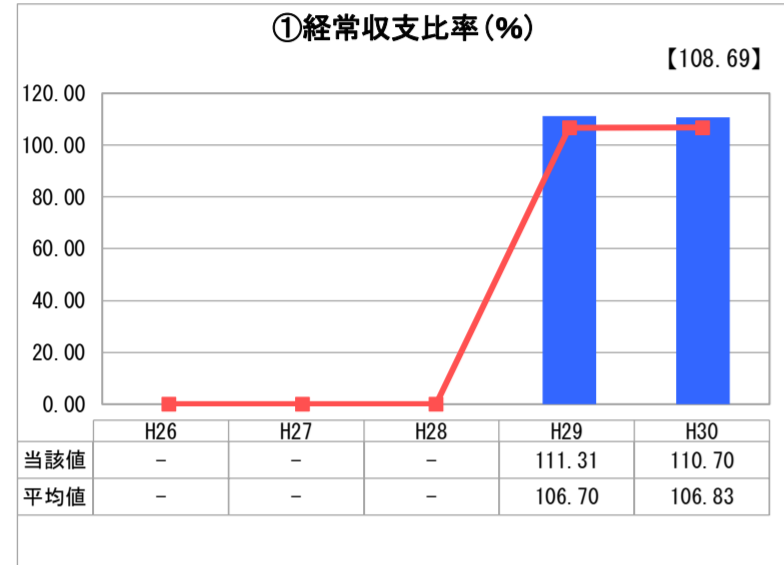
岩手県 金ヶ崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	33.00	54.63	92.49	4,104

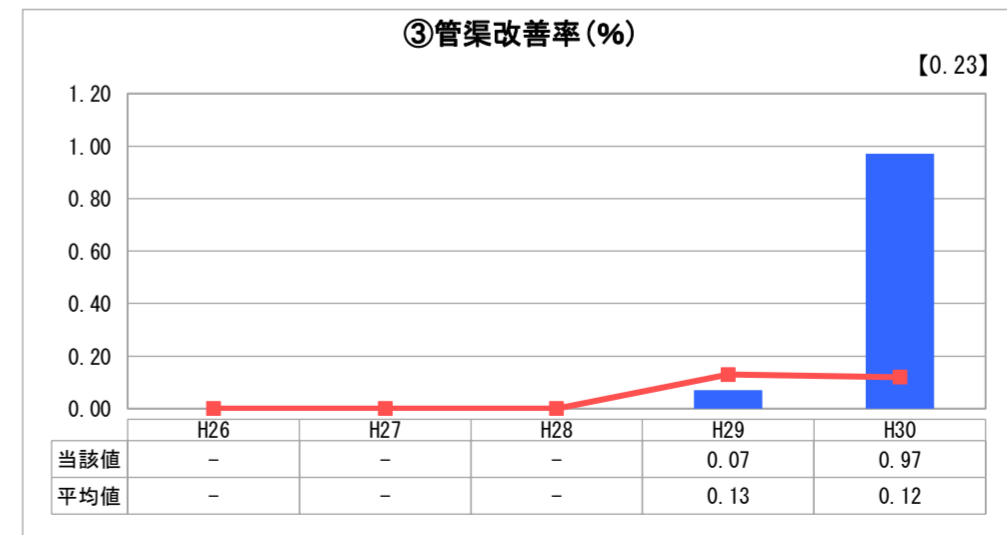
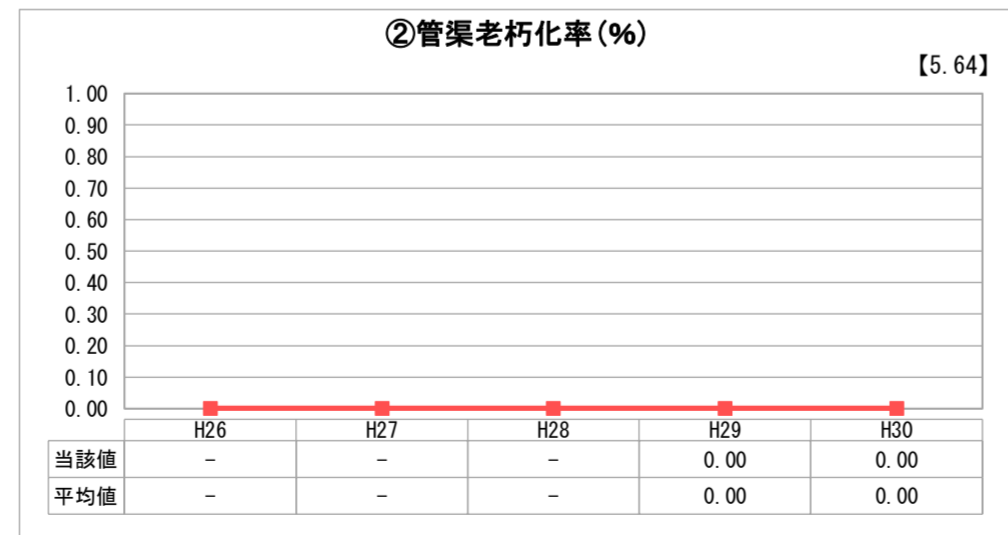
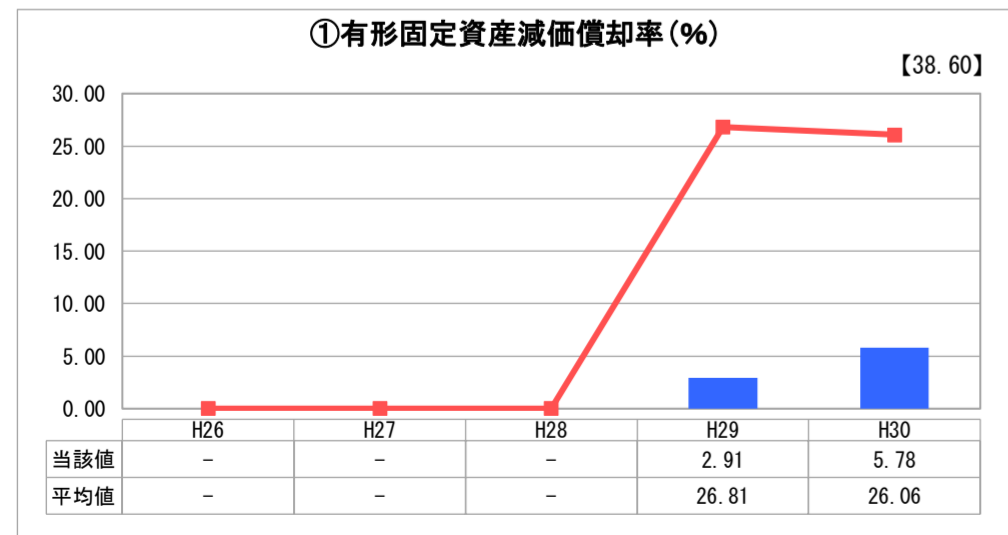
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,644	179.76	87.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,506	5.58	1,524.37

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

町全体の自然環境が保全され、どこに住んでも快適な生活環境を実現できるよう下水道整備を積極的に進めた結果、水洗化率は高い水準となっている。しかし、総収益が使用料以外の収入に依存していること、企業債償還金等が多額であることから赤字収支となっている。

企業債残高対事業規模費率については、企業債の発行は多額となっており、一方で料金設定が低くなっているため比率が高くなっている。特に平成27年度に多額の企業債を借入したため、高い比率が続いている。投資に対する料金体制を検討していく必要がある。

経費回収率は類似団体や全国平均より高い水準である。今後も健全な経営に努めていく。

汚水処理原価は類似団体や全国平均より高くなっており、今後もコスト軽減に努めていく。

2. 老朽化の状況について

初めに供用開始された管路等は、耐用年数を迎え始めている。今後、耐用年数を迎え老朽化していく施設に対応するため、長寿命化計画を中心とした事業により施設・設備の更新を計画的・効率的に推進していく。

全体総括

下水道施設は、重要な財産であることから当施設を維持していくため、管理費用や改築更新への費用増、将来的な人口減少による使用料の減少を考慮し長期的な管理計画、経営及び料金改定等を行っていくことが重要課題である。

課題解決に向け、平成27年度から検討を重ねてきた下水道事業の経営検討委員会での意見を集約し、経営改善策を取り纏めた経営戦略を平成29年度に策定した。今後も持続可能な経営に資するため経営改善を図っていかねばならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。